



第91期中間報告書

2020年4月1日から2020年9月30日まで

川本産業株式会社

証券コード 3604

会社概要

■会社概要 (2020年9月30日現在)

社名 川本産業株式会社
設立 昭和6年1月
資本金 883,000,000円
従業員数 244名(単体、パート・アルバイト・出向を除く)

■役員 (2020年9月30日現在)

取締役会長	川本	武誠
※代表取締役社長	福井	徹也
※取締役	小澤	英己
※取締役	中村	康晃
※取締役	吉田	直俊
取締役 監査等委員	吉田	上彦
取締役 監査等委員(社外)	日	明
取締役 監査等委員(社外)親	泊	伸

※印の取締役は、執行役員を兼務しております。

■執行役員 (2020年9月30日現在)

上席執行役員	東島	正序
上席執行役員	河野	壽武
執行役員	濱口	亮哉
執行役員	花村	真哉
執行役員	山田	博明
執行役員	内海	和真
執行役員	藤本	精信
執行役員	吉村	

■株主メモ (2020年9月30日現在)

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月下旬
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
上場取引所 株式会社東京証券取引所 市場第二部
証券コード 3604

■株式の状況 (2020年9月30日現在)

発行可能株式総数……………16,000,000株
発行済株式の総数……………6,000,000株
株主数……………5,454名

■大株主 (2020年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
エア・ウォーター株式会社	2,903	50.10
株式会社TK	269	4.65
川本 武	260	4.49
株式会社りそな銀行	42	0.73
川本 洋之助	41	0.71
佐々木 愛子	36	0.62
小津産業株式会社	33	0.58
川本 稔	28	0.48
株式会社大木	26	0.45
楽天証券株式会社	21	0.36

※1. 持株比率は自己株式(204,440株)を控除して計算しております。
※2. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

■事業所

本社 大阪府大阪市中央区谷町2-6-4 谷町ビル
東京支社 東京都中央区新川1-24-1 DAIHO ANNEX 8階
仙台出張所 宮城県大崎市古川十日町3-19
名古屋営業所 愛知県名古屋市中区千代田5-15-5
広島営業所 広島県広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル9階
福岡営業所 福岡県福岡市博多区綱場町8-23 朝日生命福岡昭和通ビル2階
大阪工場 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20

子会社 浙江川本衛生材料有限公司 中国浙江省
ニシキ株式会社 福岡県福岡市博多区綱場町8-23 朝日生命福岡昭和通ビル2階
株式会社サカキ & Eワイズ 三重県松阪市上川町3639-21

川本産業株式会社

〒540-0012 大阪府大阪市中央区谷町2-6-4 谷町ビル TEL.06-6943-8951



この報告書は、環境に配慮し、
植物油インクを使用しています。



株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第91期中間期（2020年4月1日から2020年9月30日）を終了いたしましたので、業績の概要並びに主要項目をご報告申し上げます。



代表取締役社長執行役員

岩野 卓

当中間期の経営成績の概況

当第2四半期累計期間の連結業績は、売上高15,568百万円（前年同四半期比29.3%増）、営業利益796百万円（同1,570.3%増）、経常利益830百万円（同872.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益673百万円（同966.9%増）となりました。

メディカル事業においては、コロナ禍における感染管理製品の需要の高まりを受け、マスクや手指消毒剤などを始めとした感染予防関連製品の販売拡充に加え、前第4四半期連結会計期間に子会社化した株式会社サカキL&Eワイズの売上高、経常利益が当第2四半期連結累計期間に含まれたことにより、売上高5,055百万円（前年同四半期比36.6%増）、経常利益585百万円（同997.5%増）となりました。

コンシューマ事業においては、大手量販店・ドラッグストアや通信販売事業者など幅広い顧客に対し、感染管理製品・医療用品・介護用品・育児用品等を積極的に販売したことに加え、前第3四半期連結会計期間に事業譲受したニシキ株式会社の売上高、経常利益が当第2四半期連結累計期間に含まれたことにより、売上高10,512百万円（前年同四半期比26.0%増）、経常利益471百万円（同89.8%増）となりました。

財務面では、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は27.9%（前連結会計年度末は25.1%）となりました。

課題への取組み状況と今後の見通し

当上期は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染管理製品の需要増加への対応や従業員の働き方の見直しが必要となりました。感染管理製品は世界的に需要が高まっていることから、原料・資材の調達が不安定となっております。当社としては感染管理製品の原料・資材の安定した調達先の確保や、安定した生産体制の確立に取組んでまいります。

また、従業員の働き方の見直しにつきましては、政府の緊急事態宣言後、感染防止対策として時差出勤やテレワークなどの取組みを行っております。緊急事態宣言の解除後も、感染防止及び従業員のワークライフバランスの観点から、この取組みを継続しております。

当第2四半期からは、戦略的な販売推進と製品開発の連携強化を目的としてマーケティ

ング本部を新設しました。マーケティングから製品開発・販売促進までを一気通貫で行うことで、よりスピーディな製品の開発と販売拡大が可能となる体制を整えております。

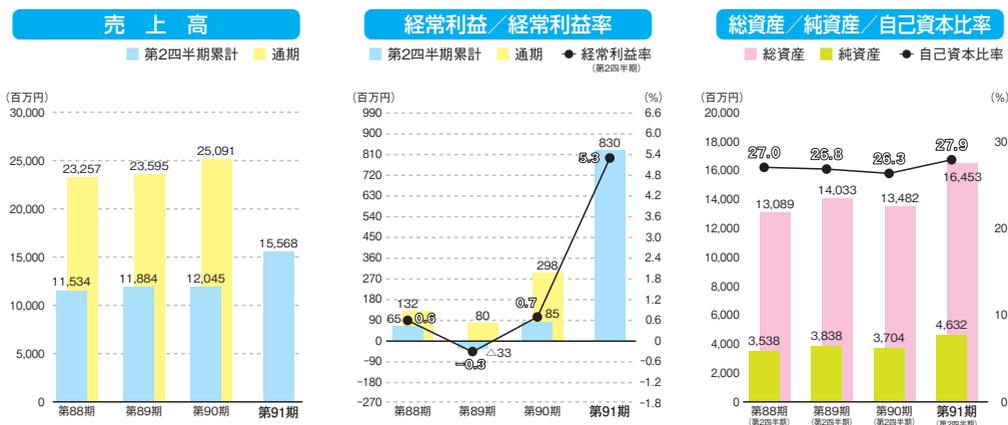
新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、マスクの安定供給と販売を進めるとともに、手指消毒剤「ステア® ジェル」シリーズの一層の充実を図るべく、製品ラインナップの拡大を進めております。また、コーポレートサイトにおいても「ステア® ジェル」の専用サイトを立ち上げるなど、コロナ禍における皆さまの感染管理に対する理解を深める取組みも行っております。

下期も引き続き、医療従事者の方々や一般の消費者の方々に、安心・安全をお届けするべく、市場調査・製品開発に加え、お客様への認知度の向上・販売促進活動に関する取組みを積極的に行っております。

その他にも、安全衛生保護具事業の拡大、受託事業の推進、M&Aによる収益基盤の強化につきましては、引き続き取組んでまいります。

今後も事業環境の変化に対応しつつ、企業価値の向上に邁進してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



注) 当社は、第88期下期より連結財務諸表を作成しているため、第88期第2四半期までは単体での記載としております。

中間連結貸借対照表

(単位:千円)

	前中間期 (2019年9月30日現在)	当中間期 (2020年9月30日現在)	前 期 (2020年3月31日現在)
流動資産	10,949,243	13,143,621	12,296,878
固定資産	2,892,917	3,310,011	3,310,099
有形固定資産	1,334,888	1,611,842	1,649,370
無形固定資産	469,657	508,686	536,931
投資その他の資産	1,088,372	1,189,482	1,123,797
資産合計	13,842,161	16,453,633	15,606,977
流動負債	6,929,696	7,829,215	7,470,119
固定負債	3,208,198	3,991,627	4,176,464
負債合計	10,137,894	11,820,843	11,646,583
株主資本	3,392,815	4,179,066	3,539,856
その他の包括利益累計額	246,568	407,945	378,964
非支配株主持分	64,882	45,778	41,572
純資産合計	3,704,266	4,632,790	3,960,393
負債純資産合計	13,842,161	16,453,633	15,606,977

中間連結損益計算書

(単位:千円)

	前中間期 (2019年9月30日現在)	当中間期 (2020年9月30日現在)	前 期 (2020年3月31日現在)
売上高	12,045,138	15,568,715	25,091,859
売上原価	10,071,129	12,484,053	20,795,283
売上総利益	1,974,008	3,084,661	4,296,575
販売費及び一般管理費	1,926,302	2,287,829	4,064,379
営業利益	47,706	796,831	232,196
営業外収益	57,656	65,563	105,688
営業外費用	19,934	31,831	39,018
経常利益	85,428	830,563	298,866
特別利益	—	—	7,128
特別損失	2,859	2,381	3,484
税引前四半期(当期)純利益	82,568	828,182	302,511
法人税、住民税及び事業税	14,098	143,990	36,830
法人税等調整額	5,762	6,002	12,806
四半期(当期)純利益	62,706	678,189	252,874
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	63,173	673,983	254,509

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間期 (2019年9月30日現在)	当中間期 (2020年9月30日現在)	前 期 (2020年3月31日現在)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 823,690	505,142	△ 624,226
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 37,819	△ 39,979	△ 250,183
財務活動によるキャッシュ・フロー	805,547	△ 492,047	1,301,947
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 5,737	△ 6,630	△ 5,490
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 61,701	△ 33,515	422,046
現金及び現金同等物の期首残高	1,195,615	1,195,615	773,569
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	711,867	1,162,100	1,195,615

福岡営業所を移転・仙台出張所を開設

2020年8月11日(火)より福岡営業所を移転、2020年9月1日(火)より仙台出張所を開設いたしました。

福岡営業所

〒812-0024
福岡県福岡市博多区綱場町8-23
朝日生命福岡昭和通ビル2階

仙台出張所

〒989-6165
宮城県大崎市古川十日町3-19

食事中用エプロン レギュラーサイズ

2020年9月 発売

新製品

「食事中用エプロン」シリーズに、レギュラーサイズのラインアップを追加いたしました。介護現場の声を元に、エプロンを食卓に広げたり下に垂らしたりと、用途に応じて使いやすいサイズに設計いたしました。

POINT

- ①撥水・防水加工で安心
 - ・表面のはっ水加工、裏面の防水加工で水や油を防ぎ、簡単に汚れを落とせる
- ②軽くて耐久性抜群
 - ・軽くて耐久性があり、しわになりにくい素材を使用
 - ・面ファスナー部に耐久性に優れたタフマジックを使用



一般のお客さま向け「衛生材料製品」シリーズ

2020年9月 発売

リニューアル

長年ご使用いただいております「衛生材料製品」シリーズのパッケージ(24種)をリニューアルいたしました。「衛生材料製品」シリーズは、医療機関等でもご使用いただいている高品質な製品を、一般のお客さま向けにご提供いたしております。

POINT

- ①高品質・清潔感を感じるデザイン
 - ・医療・衛生材料の総合サプライヤーとして、高品質・清潔な製品を提供していることをアピール
- ②一目でわかる使用用途
 - ・イラストから写真に変更することで使用用途がわかりやすい
- ③店頭で目立つ統一デザイン
 - ・川本産業の「衛生材料製品」であることがすぐにわかる統一されたシンプルなデザイン

〈変更前〉



〈変更後〉



マウスピュア® 口腔ケアジェル ウメ風味 90g 2020年10月 発売

新製品

口腔ケアに欠かすことのできない「マウスピュア® 口腔ケアジェル」シリーズより、3種の風味（ウメ風味・レモン風味・イチゴ風味）の中でも人気No.1であるウメ風味の大容量タイプをラインアップに追加いたしました。医療・介護・在宅等において口腔ケア保湿剤の市場は今後も増加する見込みです。

お客さまからの声



40gだと少なく消費が早い。
40g以外はありますか？

40gのみですか？
1本はどのくらいでなくなりますか？



大容量
90gが
登場

口腔化粧品

販売名：口腔ケアジェル



従来品40g（イチゴ風味、ウメ風味、レモン風味）

【サイトURL】 <https://www.mouthpure.com/>



「ステア®ジェル」ブランドサイト開設

2020年9月

9月17日(木)より、「ステア®ジェル」のブランドサイトがオープンしました。「マウスピュア®」、 「mimot」のブランドサイトに続き、皆さまによりその製品を深く知っていただくため、コーポレートサイトの製品情報から飛び出した特別サイトです。

「ステア®ジェル」の製品説明だけでなく、正しい手洗い方法や感染対策に関するページも充実していますので、皆さんぜひご覧ください。



ぜひ
ご覧ください！

【サイトURL】 <https://www.stirgel.com/>



働き方改革における当社の取組み

POINT 柔軟な働き方への変革

緊急事態宣言発令以降、私たちの生活は一変いたしました。日常生活や働き方だけでなく、ビジネスの仕組みも大きく変わり、かつて経験したことのない事態に直面しております。

川本産業では、パンデミックや災害発生等の様々なリスクに対応し、事業継続性を確保するために、「どこでも働ける」働き方への変革を推進しております。

今後の取組み

① 場所を選ばない働き方（在宅勤務の導入）

- フレックスタイム制度の適用拡大
- 在宅勤務制度の導入

② 効率的な会議の実現（会議工数の削減）

- 定期的な会議のスリム化
「やめる」「出席人数を絞る」「会議時間を短縮する」
- 会議の効率化（会議前準備・会議中・会議後）

③ 移動を最小限にした働き方（出張の削減）

- 社内会議の為の出張は原則禁止
- WEB会議活用促進
- 総出張回数の削減

④ 紙を消費しない働き方（ペーパーレス化の促進）

- 会議での紙資料原則禁止、100%ペーパーレス化（プロジェクターへの投影、ノートパソコンを使用）
- 紙資料の電子化



柔軟な働き方に対応するため、社内規程の見直しを進めるとともに、組織風土・従業員の行動変革を目指した取組みを進めてまいります。

また、各種事務手続きのオンライン化への対応や、RPA(※)導入など社内のインフラ再構築に向けた取組みも推進しております。

(※) R P A…「ロボティック・プロセス・オートメーション」

主に定型作業をルールエンジンやAI（人工知能）などの技術を備えたソフトウェアのロボットが代行・自動化すること。業務の効率化・生産性の向上等に役立ちます。

